

行政視察報告書	(会派の場合) 会派の名称	
	代表者氏名	
	(会派以外の場合) 議員氏名 笠原俊一	
参加議員	荒井 直彦 議員	伊東 圭介 議員
	土佐 洋子 議員	中村 和雄 議員
	議員	議員
	議員	議員
日 程	令和6年1月29日(月)ー令和6年1月30日(火)	
視 察 先	(1) 静岡県下田市議会	
	(2) 静岡県下田市立下田中学校・下田市教育委員会	
	(3)	
視察目的 (項目)	(1) 葉山町議会・下田市議会意見交換会	
	(2) 中学校の統合について	
	(3)	
<p>【概要】 荒井 直彦</p> <p>1. 令和5年度 葉山町議会・下田市議会意見交換会 令和6年1月29日 月曜日 13:30ー</p> <p><出席者> 下田市側 全議員(12名) 葉山町側 伊東議長・笠原・土佐・中村・荒井(5名)</p> <p><内 容></p> <p>下田市議会の半数の議員が令和5年11月20日から1泊2日で葉山町にいらっしゃいましたが、その際に来られていない議員から、アマモ対策の取組について、今後、詳しく情報がほしい旨お話がありました。後日、葉山町側の窓口から連絡をすることに。</p> <p>葉山町側からは、令和6年10月26日の土曜日に町制施行100周年の式典と前日の夜に小宴を開催する予定である旨お伝えした。</p> <p>終了後「水仙まつり」会場の爪木崎まで、同行して頂いた。入場は無料で、維持管理は、駐車場収入を中心に財源にして毎年実施している。(年間では、夏も駐車場収入がある。)</p>		



2. 下田市立下田中学校・下田市教育委員会

令和6年1月30日 火曜日 9:30-

<出席者> 山梨校長他、下田市議会議員土屋議員・天野議員

<内 容>

過去の経過

当初、平成19年12月から平成21年5月にかけて稲梓中学校と稲生沢中学校の統合の話を進めていたが、先送りをしている。

(理由は、保護者と地域住民の方の十分な同意を得ることができなかった)

その後のおもな経過

*平成26年12月に学校再編整備について

下田市教育委員会から下田市立学校等再編整備審議会に意見を求められてから議論が開始された。

*平成29年3月に既在学校施設を最大限活用した長寿命化改修を方針に決定し、安全・安心で快適な学校施設を整備する。

*平成29年8月に目標となる新しい中学校開校日は、令和4年(2022年)4月1日に決定している。

<おもな内容>

1. 4校を1校にする為のアンケートの保護者の最大の懸念項目は生徒の通学に係る負担（距離と費用）についてで、現在の下田市立下田中学校にする全生徒の通学には、基本定期バスを利用している。尚、統合後、登校時間等調整がつかない（加増野、須原地区）と稲梓学区に「学校まで直通」のスクールバスを配置している。

* 2台のマイクロバスを購入して対応。（購入時50%負担金）

* 生徒のバス停（昇降）は 民間バス会社の了解を得て利用

* 現在の生徒数は 417名で全生徒の通学方法が把握されている。

2. 建物は、長寿命化し改修している。

旧中学校の校舎を改修した分で費用は抑えられた。

新築したのは体育館。（前市長の意向でバスケットコートは、必ず、2コート分の大きさを確保、また、2階には、通路側のところに固定式の3段の観客席が設置してある。

* 最近では、静岡県大会の会場にもなっている。（バスケット会場）

3. 統合後の部活動について

* 現在15部で活動している。

* 統合後新しく出来た部は サッカー部、軟式野球部、総合文化部

令和6年2月5日に配布予定の新生説明会資料

4. サーフィン部に関して

全国で2番目に発足。ちなみに1番目は宮崎県の青島中学校

* 学区以外から3名が入学と入部

* もともと現在の顧問の先生も別の地区から先生自身の異動希望がかないサーフィン部に就任している。

※添付資料あり

下田市視察

笠原 俊一

下田市到着後すぐに、下田市議会との意見交換会が中村議長、江田副議長により設営されました。飯田副市長、永井議会事務局長補佐ほか12人の下田市議員（女性2人）と自己紹介の後、意見交換会が行われました。

友好都市として議会や住民の相互交流。正月に起きた能登半島地震から防災に関する対応や協定の必要性、課題などについての意見交換がおこなわれました。

その後、御用邸のある爪木崎で1月末まで行われている水仙祭りに案内していただきました。イベントやフォトコンテストなどが行われ、多くの観光客で賑わう灯台下の水仙が咲き誇る海辺の広大な公園です。

翌日の視察は下田中学校です。葉山町の小中学校一貫校に向けた課題の参考として、友好都市の下田市が令和4年4月に市内4中学校（稲梓中学校・稲生沢中学校・下田中学校・下田東中学校）を統合して、下田市立下田中学校が開校されました。

統合理由は生徒数の減少による単学級の弊害。7小学校も生徒数は当然少ないが、現段階は統合ありきではなく、少子化問題としての在り方研究会の発足準備中との発言や中学校の「統廃合ではなく統合」との発言などデリケートな課題と感じられました。

下田中学校開校までの諸課題、教職員、学生や保護者、さらに各地域それぞれの住民保護者との協議などなど。説明後には各教室や職員室、驚くほど立派な体育館、何より生き生きと勉強する子供たちの授業風景「こんにちは」挨拶してすれ違う元気な子供たち、この姿こそ山梨校長先生、当日対応された職員の方々が私たちに見せたかった事だと実感しました。

◎静岡県 下田市視察報告

伊東 圭介

意見交換会

・令和5年11月20日に下田市議会議員の半数の議員が葉山町を訪れた際に今後の友好都市交流の在り方や議会運営上の諸課題について意見交換を行ったがその時のまとめと続きを行った。今回は、下田市議会側は、全議員出席のもと行われました。冒頭には、飯田副市長からもご挨拶をいただきました。

- ① 議員交流の継続は、意義があること。相互の行政実情等を参考とし、取り入れる機会にもなる。
- ② 市民町民交流につなげることが継続していくには、大切である。スポーツ・文化等に関する交流などは、可能性が高い。
- ③ その他の切り口として商工関係、観光関係、あるいは商工会青年部、青年会議所（JC）などの若い人たちの交流が考えられる。物産展等と組み合わせることも可能。

その他にも今回新たに磯焼け問題について海に関する環境団体（葉山アマモ協議会など）同士の交流・情報交換をしていきたい。災害時等の相互応援に関する協定の充実等も話題になりました。

令和 6 年度中に那須町も一緒に正副議長が集まる連絡調整会議的なものを設けて、今後の交流の在り方を更に詰めていくことを検討する。(1 市 2 町で持ち回り当番により交流機会を設けるなど)

中学校の統合について

- ・ 中学校 4 校を 1 校に統合した経緯については、単学級が発生することが見込まれることを受けて諮問した再編整備審議会が平成 27 年 3 月に出した当初の答申は、「将来 1 校化することを視野に、第 1 段階として 4 校を 2 校化することを検討する」というものでしたが、平成 28 年 8 月の総合教育会議において 2 校化したとしても近い将来、再び単学級の発生が見込まれるとして「下田市立 4 中学校を一度に 1 校化することが望ましい」という方向性が示されたそうです。

これを受け教育委員会では、中学校再編検討会議の設置、アンケートの実施、保護者説明会や市長と語る会（タウンミーティング）での説明を行い、最終的に平成 29 年 3 月に「下田市立中学校再編手法及び新中学校候補地に係る報告書」を取りまとめ 1 校化に向けて進むことになったとのことでした。

過去においては、平成 18 年に統合の議論をスタートした時期には、中学校が無くなる地域において大反対があり平成 20 年に一度、中止に至ったこともあったとのことでした。

そして、令和 4 年 4 月に築 40 年を経過した旧下田中学校に新下田中学校として開校したそうです。改修費は、約 22 億円で過疎債を発行し対応とのことです。新築のメイン体育館は、中学校としてはかなり広く、校舎も改築とは思えないほどきれいでした。

- ・ 閉校した学校の跡地利用については、事前に財務課所管の公有財産有効活用検討委員会において活用案を検討したそうです。旧稲生沢中学校は、市役所の新庁舎の一部として改修し令和 6 年 5 月より供用開始の予定とのことです。また、旧下田東中学校は、貸館として条例整備等を行い令和 6 年 4 月より下田警察署の仮庁舎として運用開始するとのことです。旧稲梓中学校は、新中学校の建設事業に利用した起債「公共施設適正管理推進事業債」の面積要件を満たすため校舎部分を解体し、体育館、用地については、委員会において検討中とのことです。

- ・ スクールバスについて

統合に関するアンケートで保護者の最大の懸念事項は、通学の方法及びその費用であったため、統合を実現するためには、生徒の通学に係る負担（距離・

費用)については全て行政で解消を図ることが大前提となっていたため、費用面はもちろん「学校まで直通で(稲梓学区)」という保護者の意向を実現するためにスクールバスの運行を決めたそうです。

スクールバスは、2台で2コース、朝は、1便、帰りは、2便運行。登校時間等の調整がつかない地区(加増野・須原)についてスクールバスを運行していてその他地区については、路線バスを利用しているとのこと。スクールバスは無料で、路線バスについては、定期券を配布して対応しているとのことでした。



葉山町では、2校の施設一体型の小中一貫校、義務教育学校への再編、検討が始まったばかりである。下田市とは、事情は違うが少子化については、緩やかに進み、施設の老朽化も顕著な状況である。葉山らしい特色のある、時代に合った新しい学校の在り方を町民全体で議論し、スピード感をもって進めていかなければならないと考えます。

・意見交換会

土佐 洋子

下田市役所にて下田市議会中村議長や江田副議長をはじめとした全議員と飯田副市長にご対応をいただき意見交換会を行いました。

・防災協定

・友好都市交流のありかた

・アマモ対策など

意見交換会の後、1月31日まで開催されている水仙祭りの爪木崎を正副議長と土屋議員にご案内いただきました。300万本の野水仙の白い可憐な花々が咲

き誇り、甘い香りと一足早い春を感じました。水仙の葉や球根は猛毒があるそうで、イノシシ対策にもなります。

また、夜には正副議長と議席の偶数の議員により、懇親会を開催していただきとても有意義な交流を持つことができました。

・中学校の統合について

令和4年4月に下田市内4校の中学校を、一気に1校に統合した下田中学校を現地視察しました。下田市教育委員会や山梨校長先生、かつて統合のときに担当課長だった土屋議員にも同席いただきました。

かつて平成19年に統合の動きがあったが、当時の保護者や地域住民の方々の十分な同意を得ることができず、平成21年に教育委員会として統合先送りの結論を出した。

単学級が発生することが見込まれることを受けて諮問した再編整備審議会が平成27年に出した当初の答申は「将来1校化することを視野に、第1段階として4校を2校化することを検討する」というものだった。しかし、平成28年の総合教育会議において2校化したとしても近い将来、再び単学級の発生が見込まれるとして「下田市立中学校を一度に1校化することが望ましい」という方向性が示された。前回のことがあり、丁寧な住民説明会を行った。

1校化に関するアンケートを全小中学校（7小学校、4中学校）の保護者並びに教職員、候補地・通学に関するアンケートを全小中学校並びに幼保こども園（公立3園、民間2園）の保護者並びに教職員に行った。生徒数の減少があり住民の反対はなかったが、保護者の最大の懸念事項は通学の方法及び費用であったため、統合を実現するためには生徒の通学に係る負担（距離、費用）についてはすべて行政で解消を図ることが大前提で、費用面はもちろん、地区によっては「学校まで直通で」という保護者の意向を実現するためにスクールバスを配置した。スクールバスは29人乗りのマイクロバスを2台購入し、2コースでバス会社に委託して運行している。

下田市視察報告

中村和雄

市内4中学校を1中学校に統合するにあたって、市民から反対の声が上がらなかったという。事実、保護者説明会の報告書に反対意見の記録はなかった。

説明によれば、平成19年から21年にかけて統合再編の議論が行われたが、保護者や地域住民の同意が得られずに統合が先送りになった経緯があったことが幸いしたとのことである。必要性が説明できれば、住民は理解してくれると

いう教訓として受け止めたい。

統合にあたって最も議論になったのは、通学の問題だったということで、その対応策はきめ細かく、かつ通学補助関係予算は多額で年額3千万円を超えるものとなっている。通学補助制度をいかにするかが、今回統合のポイントだったということでやむを得なかったとは言え、人口2万人の市にとって大きな負担ではある。

ただ、校長先生によれば、思いがけない統合の効果もあったということであった。下田市では単学級編成の少人数教育による支障の回避・解決を統合の理由にしてきたが、統合による想定外の効果として、新しい学校になったことにより学校全体に活気と意欲が生まれたこと、環境が変わったことで、固定した狭い人間関係の中で行き場のなかった子どもたちが数名ではあるが学校に復帰することができたとのことである。統合にあたって、少人数の中で育ってきた子どもたちが多人数の中で適応できるのか不安視する保護者の意見が出されていたが、多様な仲間からなる集団生活の本来の良さを確認できた話だった。各中学校の学区単位の説明会では、学校が無くなる地区の人口減少を懸念する声はいくつかの学区で出ていた。市全体の人口が減少する中で、さらに人口が減少する地区をどう支え維持していくか、市の今後の課題であろう。

市内中学校の生徒数は2023年度422人であるが、下田市の推計では、10年後には半数近くの229人に減少すると予測している。余計なことではあったが、その頃の時点で小学校の統合と小中一貫校化を併せ進めればいいのではないかと思い、そのことを下田市の学校教育課長に話した。葉山町では、子どもの減少がもっと緩やかなのでそういうタイミングを待つわけにはいかないが。

本町では、2校体制による小中一貫校方式を検討しているが、新しい学校への統合編成が葉山の子どもや教育に活気と新たな飛躍をもたらす可能性を感じた。小中一貫校への取り組みが、葉山町の持続可能なまちづくりの原動力になることを期待したい。



以上